

会 議 録

1 会議名

令和3年度第2回三和区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）協議事項（公開）

- ・令和3年度地域活動支援事業プレゼンテーション
- ・令和3年度地域活動支援事業の審査

（2）その他（公開）

- ・三和地区地域福祉推進委員の推薦について

3 開催日時

令和3年5月20日（木）午後3時00分から午後7時00分まで

4 開催場所

三和コミュニティプラザ 3階 多目的ホール

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者の氏名

- ・委員：飯田英利、池田輝幸、江口晃、小山田幸雄、金井茂康、小林則子、高橋鉄雄、田辺敏行、富村広文、星野幸雄、松井隆夫、松栄由里、宮澤克己、森由美
（14人中14人出席）
- ・事務局：三和区総合事務所 金子所長、岩崎次長、丸田市民生活・福祉グループ兼教育・文化グループ長、小山地域振興班長、渡辺主任

8 発言の内容（要旨）

【岩崎次長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・飯田委員遅れて出席。審査までには来る。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務める。

【高橋会長】

－挨拶－

- ・本日は、地域活動支援事業のプレゼンテーションと審査があるため長丁場となるが、皆様のご協力をお願いしたい。
- ・事業の採点集計の時間を利用して、我々の課題でもある地域のあり方についての勉強会を実施する予定。
- ・会議録の確認を、松栄由里委員に依頼。

【高橋会長】

3 協議事項に入る。(1) 令和3年度地域活動支援事業プレゼンテーションについて事務局の説明を求める。

【小山班長】

- ・資料No.1により説明。

整理No.8「地域のヒーローを支援する事業」は、取り下げの申し出があった。整理No.6「東日本大震災にまなぶ事業」は、補助金希望額を、16万7千円から16万1千円に減額の修正があった。また、前回の協議会で今年度の全ての事業について、補助率10分の10で決定いただいたところだが、整理No.1「三和の子どもたちの健やかな成長を支援する事業」について、さんわスポーツクラブにその旨話したところ、提案書の内容は役員会で協議し決定したものであるため、補助希望額の88万6千円は変更しないとのこと。以上、12事業11団体、補助希望額は606万円となっている。

続いて、市担当課の所見については、7つの事業について所見を依頼し、回答があったので、各事業の特記事項を含めてご覧いただきたい。整理No.12「小・中学生が「三和を愛する心を育む」ための事業」については、共生まちづくり課人権・同和対策室から課題ありとの回答であるが、人権同和に関しては、内容に配慮して取り組んでいただきたいとのことである。

【高橋会長】

では、整理番号順にプレゼンテーションを行う。事前にいただいた質問に対する回答で5分程度、当日の質疑応答で5分程度、計10分を予定している。No.1「三和の子どもたちの健やかな成長を支援する事業」のプレゼンテーションをお願いする。

【提案団体：NOP 法人さんわスポーツクラブ、説明者：NOP 法人さんわスポーツクラブクラブマネージャー】

- ・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。
- ・各部への入部状況の結果について、提案書提出時からの変更点等について、配付資料により説明。
- ・質問に対する回答

まず、質問1の「昨年度と同じ内容に思いますが」という点についてだが、今、三和中学校では柔道部はないが、クラブの柔道教室という形で部活と同じ取り扱いで行っている。そして、バレー部は、昨年度、土日のどちらかで、半日程度という支援だったが、今年度は平日の水木金と土日のどちらかの半日ということになっている。今現在、中学校の部活は18時までだが、今は子供たちが16時過ぎに三和体育館に来て17時まで勉強をしている。その後、指導者が17時15分に来て指導をしている。部活は先ほど申し上げたとおり18時までとなっているが、18時30分を目途にクラブ主催の教室という形で行っている。つまり18時まででは三和中学校の部活で、以降、片付けを含め19時位になるが、そこは、さんわスポーツクラブの教室というようになっている。

質問1(1)の講師謝金について、市の基準に比して高いとのことだが、半日5万円の講師はプロであり、1時間1万円の基準は、資料作成やパワーポイントを使用する講師についての当クラブの基準になっている。令和3年度の当クラブの基準規定を資料として配付させていただいたため、参考にしてほしい。

質問1(2)講習会の受講者の参加費についてだが、生徒の参加費は月会費に含まれている。なお、指導者については4時間3千円、時給にして750円で十分な謝金だとは思えない中、むしろ、時間を割いて来てもらっているのに、更にこの方から参加費を徴収することは考えられない。指導者講習を受けていただき、また子供たちに還元していただきたいと思う。

質問2(1)について、「前期」というのが令和2年の実績ということで答えさせていただいた場合9名。野球が3名、バレーが2名、柔道が2名、その他が2名である。

質問2(2)現時点における会員数は、4月末で正会員18名、一般会員22名、団体会員は正会員を含めて200名。賛助会員は、5月10日現在で36社になっている。

【高橋会長】

委員から質問はあるか。

【松井委員】

要望だが、さんわスポーツクラブの自立型クラブの育成の強化という面をとらえたときに、指導員の育成強化という面についてはどう考えているか。

【NOP 法人さんわスポーツクラブクラブマネージャー】

今は、指導者の育成ということでは、予算は取れていない状況であるが、加盟団体ごとに指導者の育成は行っている。それに頼るばかりでなく、これからは指導者の育成についても徐々に考えていきたい。

【高橋会長】

次に、整理No.2「三和ふれあい食堂事業」のプレゼンテーションを求める。

【提案団体：三和ふれあい食堂運営委員会、説明者：三和ふれあい食堂運営委員会副委員長】

- ・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。
- ・質問に対する回答

質問1について、コロナが終息しなくても実施するのか、コロナが収束してから実施できないかとの質問だが、終息後の実施となればいつになるか分からず、また地域活動支援事業として、採択の有無も事業内容に大きく影響するため、今年度は事業採択を前提に試行的実施ということで3回開催を計画した。事業の周知、PRと参加者、各種ボランティア募集期間を設け、三和の特産である新米の収穫できる10月に第1回の開催を予定しているところだが、10月の開催は、今後新型コロナウイルス感染に対する国、県、市の動向を注視して判断する。

質問2（1）ボランティアスタッフ構成員については5名。

質問2（2）スタッフとしての活動の応援者を募る展開計画については、構成員の運営委員は、三和ふれあい食堂開設に向け、その目的、内容、そしてボランティアを重視して協力くださるよう、それぞれの場で働きかけを行っている。4月2日に事前PRを兼ねた、ふれあい食堂の昼食会を美杉の里で実施したところ、55名程参加いただいた。

質問2（3）妙高市の子ども食堂の運営、活動については知っている。昨年12月4日に開設に向け関係者が集まり、上越地域の情報を収集した時に聞いたが、個人的には、開始直後から知っていた。また、昨年12月4日の開設準備会に、上越地区子ども食堂の先駆者である南本町3丁目の「いちよう食堂の会」の会長からも食堂の目的、運営メンバー等々をお聞きし、非常に参考になった。

質問2(4)報償費等の検討という指摘については、報償費3万円は見守り謝金で、上教大の学生に依頼する予定であり、学生にボランティアで依頼するのは切ないものがあるため、せめて交通費程度の謝金でということに計上した。なお、講師謝金は三和区内で講師に従事する方々にボランティアとして協力を依頼する予定。講師の確保ができないとき、あるいは専門的知識、技能等特別に講師を依頼するときは、それなりの対応で予算計上する。なお、この指摘に関しては運営委員会で協議する。

【高橋会長】

委員から質問はあるか。

【松井委員】

平出さんの件は私が質問した。次年度以降、開設の目標が毎月1回ということだが、食材やボランティア等を考えたときに、並大抵ではないことは平出さんから聞いている。今の捉え方でいけるのかどうかが一番の懸念であり、そういう意味で質問した。

【三和ふれあい食堂運営委員会副委員長】

何が起こるか分からないが、持続可能な活動であると捉えている。毎月1回ということが大変だというのは覚悟している。様々な皆様のご協力をいただきながら行くために、覚悟を決めて臨んだところである。

【高橋会長】

次に、整理No.3「さんわ桜の陣2022周知事業」のプレゼンテーションを求める。

【提案団体：さんわ桜の陣実行委員会、説明者：さんわ桜の陣実行委員会事務局（三和商工会事務局長）】

- ・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。
- ・質問に対する回答

質問1ライトアップに関する質問については、今回は西部工業団地の23の企業に協力をお願いしたが、急だったこともあり、ライトアップの事業の継続性が不透明の中で臨時的な資機材への投資は難しい、また、今年の場合は、枝折れ等が多くて、ライトアップに耐えられない等の意見が寄せられ、結果的に、2社から開花期間中に駐車場の照明をつけっ放しにしてもらうなどの協力をいただいた。ライトアップを継続するかの検討については、実行委員会はもとより、三和西部工業団地協同組合の統一的な協力を得ることも選択肢の一つとして、今後、検討・協議していく。

質問2周知の実績については、2,800枚チラシを作成し、区内全戸の配布で1,6

50枚、周辺の町内会として牧区、高士区、津有区、保倉区、諏訪区の一部に新聞折り込みで700枚を配布させていただいた。残りについては、事業参加店、近隣の町内商工会、報道機関等に配布して周知に努めた。新潟日報やまるごと上越、上越妙高タウン情報などに取り上げていただいた。今年の実績については、三和のさくらフォトコンテストに25人から出展いただき、うち三和区の方が11人。作品数については48点応募があり、うち三和区の方は19点。5月7日に審査会を開催し、すでに上越タイムス等でも報道されたとおり、8人の受賞者を決定させていただいた。なお、総合事務所の協力を得て、6月1日からコミュニティプラザの1階ロビーで、入選作品の展示を1か月程行う予定。また、GOTOさくらめぐりキャンペーンという形での事業も展開し、22店舗から参加をいただいた。ポイントカードが貯まるとそれが抽選券になって、商品券が当たるというキャンペーン内容である。お客様へのポイントカード配布枚数が3,204枚。そのうち10ポイントたまって応募のあった枚数が1,269枚。220人の当選を抽選で決定し、商品券を送付させていただいた。なお、220人の内訳は三和区で約63%、合併前上越市で約22%、あとは、主に12区の方々、糸魚川市や妙高市からお越しの方も当選されているし、東京都の方も1人当選されているなど、幅広く応募いただいた。

質問3 実行委員会の今後のことについては、現在の実行委員会は商工会役員と会員、そして、三和西部工業団地協同組合と事務局計14人で組織している。ご質問のとおり、三和区挙げてという認識で拡大等、参加意識を高める必要性も十分感じているところである。例えば、委員の一部を広く公募することも検討して、多様な意見が反映され、更に充実した事業になるよう努めていきたいと考えている。

【高橋会長】

委員から質問はあるか。

【池田委員】

桜を見るという主体で考えると、この時期はやはり高田と競合する。人はどうやって桜を見に行くのかと考えると、桜だけで人を呼び込むという発想をそろそろ変えなければいけないと思うが、開催するに当たって、ポスターを作成し、チラシをまいて、それだけの効果が得られるかどうか、その辺をお話しいただきたい。

【三和商工会事務局長】

上越市の観桜会と結果的に重なることになるが、始まってから既に4回を数えており、

集客的イベントを行って1日楽しんでもらうというやり方で始まった。約1,200本のあれだけの桜は上越地域にもないということで、あそこを何とかしようと始まった経緯がある。この事業は、継続的に続けていきたいと思うし、春は桜、夏は夏祭り、秋はまた違うイベントというような継続性のある流れにできればということで、実行委員会としても考えているところである。

【高橋会長】

次に、整理No.4「印刷機導入による地域住民への貢献事業」のプレゼンテーションを求める。

【提案団体：NPO 法人三和区振興会、説明者：NPO 法人三和区振興会理事長】

・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。

【高橋会長】

委員から質問はあるか。

【松井委員】

コピーサイズはA3までとなっているが大丈夫か。

【NPO 法人三和区振興会理事長】

大丈夫である。

【松井委員】

職員が対応するとなると、土日や時間外の利用は可能なのか。ある振興会ではカードを発行して、自由に使用できるようにしているところもあるが、そこまで利便性を図るような検討をお願いしたい。

【NPO 法人三和区振興会理事長】

休日の利用も含めて検討しなければならないと思う。

【星野委員】

値段を決める時に、他の機関、市の施設色々あるが比べたか。神明町は136世帯あり、コピー代が目になって仕方がない。市民プラザのボランティアセンターでは1枚2円で印刷できるため、土、日に少し遠いが行っている。そういう所も調べたのかお聞きしたい。

【NPO 法人三和区振興会理事長】

13区の中で、コピーサービスを行っている組織については調べているが、皆コピー機であって、印刷機ではない。市民プラザについては調べていない。神明町は100枚以

上だと1枚2円になる。どうしても土日でない駄目か。

【星野委員】

役員の皆さんは勤めているため、どうしても活動するとなると休みの日になってしまう。その辺りの利便性を良くしていただければ、利用させてもらおうと思うので、お願いしたい。

【高橋会長】

次に、整理No.5「コロナに打ち勝つ「イルミネーション」点灯事業」のプレゼンテーションを求める。

【提案団体：さんわ祭り実行委員会、説明者：さんわ祭り実行委員会委員長】

- ・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。
- ・質問に対する回答

質問について、イルミネーションとしての継続は今のところ考えていないため、あくまでもさんわ祭りの継続の中で消化していきたいと考えている。

【高橋会長】

委員から質問はあるか。

【池田委員】

直径、高さ5メートル程度のイルミネーションを総合事務所の一角に設置しても、見栄えや建物に対してイルミネーションの効果がよく出ないのではないかと。イルミネーションをどうせ行うのであれば、吉川の個人宅で設置したもの、大潟の方で設置したもの等のように見栄えするようなものにしないと、なかなか人が見に来てくれないと思う。その辺をもう少し工夫するか、何か欲しいなと思う。

また、電源について、総合事務所前に設置するのに、なぜ電源がいるのか。事務所の方からケーブルで電源なんて簡単に引けるし、東北電力の方に仮支柱でそこに下ろしてもらうことも簡単にできるはず。そういうことをすれば発電機や燃料もいらない。その分をイルミネーションに投資して、三和のはすごいよってという思いを持ってくれるような事業にして欲しい。

【さんわ祭り実行委員会委員長】

5メートルで小さいと言われると、他にも色々あり、それらを比べたら見劣りすると思うが、今の総合事務所の前敷地を使って、危険性も踏まえて設置するにはその位かなと考えている。電源の取り方については、そこまでは検討していなかった。

【松井委員】

今から申請すれば、8月までには東北電力の許可は下りると思う。臨時灯の申請ができるため、発電機と燃料費の経費は安くあがるはずである。

【高橋会長】

次に、整理No.6「東日本大震災にまなぶ事業」のプレゼンテーションを求める。

【提案団体：三和まなびの会、説明者：三和まなびの会代表】

- ・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。
- ・質問に対する回答

質問1について、講師の方は、罹災経験のほかに、郷土芸能の獅子風流の復活活動にとっても一生懸命に取り組んでおり、その活動が認められて去年の12月に文科省の方から表彰を受けられたと聞いている。この事業が採択されたら講師の先生に打診をして、実際の経験とあわせて、郷土芸能の復活の思いというようなものも話してもらえたらと考えている。

質問2については、新聞折り込みにより、参加者は50人程で実施できたらと考えている。このコロナ禍で、これ以上の集まりは密になるのではないかという思いで計画させていただいた。コロナがあってもなくてもイベントを企画して人を集めるということは、上越市になってから更に努力が必要になっている現状があるかと思う。大震災から10年目の年に私達も災害に対する意識や覚悟を持つきっかけづくりになるものと信じている。

【高橋会長】

委員から質問はあるか。

【星野委員】

次年度以降の活動の見通しについて、今年度で完結と書かれている。講演会はそれでいいと思うが、まなびの会の学びだけでなく、この学んだことを三和に合った防災等、皆さんに周知するきっかけになって、何かに繋げていっていただければありがたい。

【松井委員】

質問に対する答えがあまりにも消極的。50人を前提に、コロナ禍での実施はなかなか大変では人が集まらないのではないか。まず、企画された原点は何なのか。これだけの企画をされたのだから、協力してほしいという言い方で頑張っていたきたい。

それと、私はいいことだと思うが、この会の設立目的が三和の文化歴史云々という

ころから始まっているが、学校教育が主体となっている。

【三和まなびの会代表】

設立して6年目になるが、まなぶ会の内容が最近、歴史と文化を学ぶというところに傾倒している気がするが、最初の設立の趣旨というものは、持続可能な三和区を維持するために伝えたいもの、バトンタッチしていくもの等の言葉が入っていた。それを合わせて考えると、災害があちらこちらで起きていることを考え、住民も災害に対する防災意識というものが必要であると考え、今回はこのような計画をさせていただいた。

また、コロナを前提に実施するあたりは、ちょっと消極的ではないかという意見だったかと思うが、その思いも十分分かるのが、コロナを抜きにイベントを考えられる時期ではないと思う。3密を回避しながら、うつらない、うつさないといった、自分たちが、企画主体として実施するときには、やはりそこを十分考えた中で計画をしていかないと、その計画がずさんではないかという指摘を受けかねない状況にある。

今も上越市では毎日のように数名の罹災者が出ているような現状を鑑みると、やっぱりコロナ抜きでのイベントの企画は難しい状況にあるが、その中でどうやったらこういうイベントを開催できるか、そのような工夫をしながら、そして参加してくださる住民も、自分でできる対策をとりながら参加していただきたいという思いで計画させていただいた。

【高橋会長】

引き続き、整理No.7「三和の三国街道巡り事業」のプレゼンテーションを求める。

【提案団体：三和まなびの会、説明者：三和まなびの会代表】

- ・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。
- ・質問に対する回答

質問(1)の募集人員が20名の拡大、また参加者の固定化はないかということについては、1回目の現地見学会はバスを利用しての見学になるので、20名という枠はそのままならざるを得ないと考えている。過去には参加者の都合で、マイカーで参加される方もいたが、そういう時は事故等に気をつけてお越しくくださいと話している。セミナーについては、コロナが終息した後に検討させていただきたい。また、参加者についてはリピーターもいるが固定化はない。リピーターにつながるということは、参加してよかった、次回があればまた参加したいという、その人の前向きな関心があるからと思われる。それだけに、まなびの会も、住民のニーズを満たすような企画力が求められているも

のと考える。また、昨年のセミナーに関しては、関西に勤めている三和出身の方が、たまたま帰省中であったことからセミナーに参加してくださった。そのセミナーを通して、三和はこんなに良いところなんだと再確認され、とても喜んでお帰りになられた。

質問(2)の中学校とのコラボについては、今、学校はとても開かれてきており、地域へ地域へと学習の場を広げていると感じている。中学生の皆さんが、地域に関心を持って目を向けているということ自体に喜びを感じつつ、我々大人が三和の姿をどのようにこれからの20年後50年後、若い世代に託していくのかという責任も感じるため、学校とコラボする地域住民としてのあり方も、ぜひ検討が必要だと思う。しかしこの課題は、三和中学校とまなびの会のみで完結するものではなく、いろいろなネットワークを通して、中学校の教育方針に周りの住民が快くサポートしていくことが重要だと思う。まなびの会として要請があれば、ぜひ協力させていただきたいと思っているし、要請されるように私たちが成長できたら嬉しいと思っている。

【高橋会長】

委員から質問はあるか。

【松井委員】

去年は、セミナーも同じ講師だった。講師という専門性を捉えたときに、なぜ今年は今地見学会とセミナーの講師を変えたのか、何か特別な理由があるのか。

【三和まなびの会代表】

そういうことではないが、同じ講師だと、過去の流れが分かっているため、こちらがこのテーマで勉強しますと投げかけたときに、これも肉付けして話した方が住民にとっては深い理解が得られるのではないかと等、色々考えてくれる。そのようなことで、吉川先生にお願いすることが多い現状にある。

【松井委員】

セミナーと現地見学会は同じ場所だが、なぜ別々の講師にされたのか。

【三和まなびの会代表】

現地見学会の北峰先生は、三和村史の執筆者であるため、現地に詳しいと思いお願いした。吉川先生は色々な資格があり、目で訴えるメディア、プロジェクター等をお持ちいただいて分かりやすく説明してくださる利点がある。

【松栄委員】

まなびの会は、本当に純粋な実施サークルのため、個人的には頑張ってもらいたいと思っ

ている。20名が参加するということだが、構成員が15人で、15人全員参加した場合、20人という枠はどのように考えればよいか。

【三和まなびの会代表】

過去の参加者を見ると、会員は大体3分の1位になっている。

【松栄委員】

会員が5人、一般の方が15人位か。

【三和まなびの会代表】

そのとおり。

【高橋会長】

整理No.8「地域のヒーローを支援する事業」は取り下げられたため、整理No.9「高齢者いきがい支援事業（ときめき広場）」のプレゼンテーションを求める。

【提案団体：三和区老人クラブ連合会、説明者：三和区老人クラブ連合会会長】

・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。

【高橋会長】

委員から質問はあるか。

【江口委員】

要望としてお話をさせていただきたい。越柳町内会の行事の中で運動会を実施しているが、少子高齢化に伴い、なかなか運動会自体の開催が難しい実態があり、このグランドゴルフを運動会の代わりとして町内会でも取り組めると思った。屋外、屋内に限らず、その場所に合わせて実施できると聞いている。子供から大人まで参加できる競技だと思うので、昨年同様、地域への貸出しについてもお願いしたい。

【三和区老人クラブ連合会副会長】

ぜひ、各町内でレクリエーションを兼ねてご利用いただきたい。貸出についても、当初からそのような計画で購入させていただいた。地域の子どもたち、お年寄り、お父さん、お母さん等、多世代の皆さんが集まって楽しんでいただけるのがこのグランドゴルフだと思う。グランドゴルフはまだ三和区ではあまり馴染みがなく、昨年初めて見たり触ったり、プレーしたという人が結構多かった。そのため、今回は老連だけで実施するのではなくて、老連主催ではあるが、チラシを全戸配布し、一般の方からも参加いただき、去年は45人だったが、今回、参加者多数になれば2会場を活用しながら実施したらどうかと考えている。その点でも、やはり道具が昨年足りなかったということで、2会場でも対応

できるように今回提案させていただいた。貸し出しについても、いくつかの町内会がバッティングしても多少余裕をもった形で貸し出しできればと、今回また少し補充という提案をさせていただいた。

【高橋会長】

次に、整理No.10「上杉小学校創立120周年記念事業」のプレゼンテーションを求める。

【提案団体：上杉小学校後援会、説明者：上杉小学校後援会長】

- ・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。
- ・質問に対する回答

質問1「うえすぎコンサート」の具体的な演奏については、上越市在住で上越教育大学の講師であるピアニストから内諾を得ている。実のお母さんが三和区出身である。

質問2 記念公演演奏5万円の内訳については、基本的な交通費や花束等の公演料だが、講師とはまだ具体的な公演料について話をしていないので、若干の変動はある。

質問3 冊子化の検討については、本事業を進めるにあたり、初めに話題となったのが、校歌を音にして残したいということがある。CDという考えもあったが、記念すべき年に、上杉地区の素晴らしさ、学校や子供たちの様子を映像として残していくことも、大きな価値があると考えている。

【松栄委員】

校歌は子ども達が歌ったものを録音するのか。

【上杉小学校後援会長】

残念ながら、児童生徒も60人位しかいない。地域の応援で地域が一体となって、この素晴らしい校歌を再アピールしたいと考えている。細かい打合せはしていないが、校長先生とはそのような話しをしている。

【高橋会長】

次に、整理No.11「三和中学校創立50周年記念支援事業」のプレゼンテーションを求める。

【提案団体：三和中学校後援会、説明者：三和中学校後援会長代理、事務局（三和中学校教頭）】

- ・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。
- ・質問に対する回答

質問（１）代議員総会実施日については、コロナ禍の状況で一堂に会する代議員会は、ここ１年以上開催できていない状況である。今年に関しても、一堂に会さないで書類審査を経て書面議決ということで進めており、５月１４日付でお願いし、２１日が締め切りとなっている。そういう状況で、あえて代議員会の実施日はということになると５月２１日ということでお答えしたい。

質問（２）５０周年記念事業検討会議の出席代議員数については、先ほど申し上げたとおり、一堂に会した会議はコロナ禍の状況の中で行っていないため、それに代わるものとして地域を代表している３地域それぞれの代表である会長と副会長２人、あと校長先生を交えた４名で役員会を開催し、このような方針決定を行っている。そのため、代議員数をあえて言うと４名ということでお答えしたい。

質問（３）全戸から寄付を募るような考えはなかったかということについて、最初、平成元年１２月スタートラインで、そのあと２年の１月、年が明けた１月ということで、最初の１回、２回の会議では、どういう方向に持っていかうかと方向性について話し合い、そこでは各戸から寄付を募り、記念となるものをプレゼントしようということで進めていた。しかし、その後ご存知のとおり、コロナが発生し休校・閉校というような状況の中で、なかなか全体として集まることができない中で時が過ぎ、最終的に通常とは少し違うが、通常の年会費で納める後援会費と地域活動支援事業補助金を合わせて事業費を賄うことになった。

【松井委員】

今回の１４万４千円は、令和３年度の収支計画に地域活動支援事業の項目で収入欄にあり、そして同額が支出に計上されている予算書が代議員に書類で送付されているのか。

【三和中学校教頭】

後援会の会計と今回の地域活動支援事業は全く繋いでいない。後援会の立場として、この、地域活動支援事業は支援の協力の依頼という形にしているので、会計の中には入っていない。

【松井委員】

申請母体が後援会であれば、そこに提案し、審議するのが通常の方考え方だと思う。この収入支出をどういう形で管理するのか。楽器や金額について言っているのではない。後援会組織で審議して欲しい。ということは、後援会員は、代議員に出された文書は誰も知

らないのか。それはちょっとおかしいのではないか。

【三和中学校教頭】

今お話した通り。今回は後援会の会計とか予算ではなく、ここに提案するため、支援するための一つの団体として、後援会でお願いしようという形で動いている。それが通るかどうかも分からないため、会計には入れていない。

【松井委員】

後援会という名前を使って、独断でこの申請を出されたのか。

【高橋会長】

時間の都合があるため、この事業はこれで終了する。

次に、整理No.12「小・中学生が「三和を愛する心を育む」ための事業」のプレゼンテーションを求める。

【提案団体：三和の子どもを「共に」育てる会、説明者：三和中学校学校運営協議会長、三和中学校校長】

・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。

【高橋会長】

委員から質問はあるか。

【小山田委員】

学校運営協議会の活動とはちょっと違うと思うが、今日のタイムスにオニバスの記事が載っていた。地域住民と教職員による地域再発見学習会があり、地域のことを先生方も学びながら子供たちに教えていこうという試みだと思う。オニバスだとか谷内地だとかいろんな活動は三和中学校だと思うが、三和まなびの会でも、三和の歴史だとかを毎年この事業に申請し採択されて、地域の歴史を再認識しようという動きをされている。

これは私の個人的な意見だが、三和中学校は毎年がんばり遠足を区内で実施している。できたら、1年、2年、3年の時にエリアを里公地区、上杉地区、美守地区で、地区内の史跡だとか、色々な所を回るようなのを3年の間にがんばり遠足で体験されるのも大変面白いのではないかという提案。今も色々実施しておられることに対しては敬意を表したいが、考えていただけると、より子供たちに対する、地域の認知度が上がるのではないかなと思う。

【三和中学校校長】

ありがとうございます。実は昨年度はコロナの影響で中止になり、今年は少し距離を

短くして、どちらかというとも里公地区から上杉地区を中心歩くのに変えた。今提案いただいたことも含めて、今まで全区域をただ歩くのが中心だったが、距離を短くした分、そういう中身を盛り込んで色々工夫する等、今後検討したい。

【高橋会長】

最後に、整理No.13「越柳町内会「写真展」「タイムカプセル開封イベント」事業」のプレゼンテーションを求める。

【提案団体：越柳町内会、説明者：越柳町内会町内会長】

- ・提案の趣旨、事業の目的及び期待する効果等について説明。
- ・質問に対する回答

今回提案された団体から比べると、本当に一つの小さな町内会の提案事業だが、町内会事業も大切な一つの地域活動ではないかなと個人的には考えているため、あえて町内会の役員会を通して、了解を得た上で提案をさせていただいた。

【高橋会長】

委員から質問はあるか。

【小林委員】

事業の内容のところで、事業の対象者は三和区の住民となって、後ろの方に主に越柳町内会住民及び関係者とある。この詳細が知りたいのと、DVDの配布は全戸へとなっているが、これは越柳町内会のみか。

【越柳町内会町内会長】

参加者の件は、対象は地域活動支援事業が採択されたのであれば、タイムカプセル開封イベントについては、地元住民が中心になるかと思っているが、写真展については、町内会館を会場に開放したいと考えているので、ぜひ、三和区の皆さんからも関心のある方はお越しいただきたい。DVDの配布に関しては、町内会の全戸で計画をしている。

【松井委員】

町内会でハードディスクが一台あればよいのではないかという気がする。DVDについては、越柳は全部で50戸位あると思うが、どう利活用を促していくのかということが1番の問題点。簡単に考えて、これが今の時流だと思うが、これの利活用が何も生かされないようであっては多分作って終わり。その辺りのところも一つの検討事項ではないのか。

【越柳町内会町内会長】

松井委員からお話があったように、活動が今年1年で終わることではなくて、やはり今年の活動で残した写真であるとか活動内容について、きちんとハードディスクに落とし込んで、次の世代へ繋いでいきたいと考えている。

【高橋会長】

以上で12事業11団体のプレゼンテーションを終了。

ここで10分間の休憩とする。

－休憩－

【高橋会長】

これより提案された事業の審査に入る。

【小山田委員】

その前によろしいか。先程の三和中学校後援会の話だが、提案内容そのものには問題はなく、私自身は高得点をつけている。ただ、私も代議員だが、今回の事業が後援会予算に入っていない。それは採択されるか、されないかは別にして、やはり入れるべきだと思うし、たまたま、あのような発言をされたのではないかと思う。私も代議員のため、後援会の予算書に入れて出し直してもらうことで要請するので、そういう前提で採択していただけたらいいのではないかなという意見である。

【高橋会長】

それでは審査に入る。

審査基準により、目的に合致しない事業及び共通審査基準の点数が平均で13点未満の事業は不採択とする。委員が事業の提案団体の代表を兼ねる場合、当該事業の審査において除外され退室してもらう。今回はNo.2「三和ふれあい食堂事業」で小林副会長、No.12「小・中学生が「三和を愛する心を育む」ための事業」で江口委員と金井委員、No.13「越柳町内会「写真展」「タイムカプセル開封イベント」事業」で江口委員が該当する。その他、提案事業の立案等に関わったなどの理由で、審査から外れたいと考えておられる場合は、委員個人の判断でその都度申し出いただくのでよいか。

(はいの声)

【高橋会長】

採択の方法として、ボーダーライン上の事業及びその下位の順位で採択ラインに達している事業について、事業内容等を勘案し全体協議を経て、補助金額等を調整し採択す

ることができることとなっているため、採点集計後、協議を行いたい。なお、不採択により30万円の予算残額が生じた場合には、二次募集を行う。以上、このように進めてよいか。

(はいの声)

【高橋会長】

それでは、採点を行う。

基本審査項目は、事業の目的と合致しているかどうかを、適合、不適合の欄にチェックを付ける。適合しないとした場合は、その理由を記入する。昨年同様、基本審査で「適合しない」をチェックした場合、以下の審査は不要となる。次の優先採択項目については、優先的に採択する事業に合致しているかどうかを、適合、不適合の欄にチェックを付ける。次の共通審査基準は、①から⑤までの審査項目について採点を行う。採点欄に点数を記入する。1点を付けた場合は、理由を記入する。その他特記事項は、評価する事項、評価しない事項があったら記入する。

整理No.1「三和の子どもたちの健やかな成長を支援する事業」から審査を行う。

(審査の除外になる事業に該当する委員は都度退出し、整理番号順に事業を審査。各事業の採点終了後、事務局が採点表を回収。)

【高橋会長】

以上で、全事業の採点が終了した。

これより、事務局が集計を行う。30分程かかる。

ここで協議会は一旦休憩とし、この時間を利用して、勉強会についての打ち合わせを行う。

—休憩—

【高橋会長】

協議会を再開する。採点結果一覧を配布した。審査案件について、採択、不採択等の決定を行う。事務局に審査結果の説明を求める。

【金子所長】

基本審査基準との適合性及び優先採択方針との適合性の審査結果については、全ての事業が適合となっている。また、本日審査していただいた事業全てが13点以上のため、採択ラインはクリアしている。

採択方法の一つ目。上から支払う希望額を配分し、予算額の600万円が切れたとこ

ろで、それより以下は合格していても不採択となり補助金を受けることができない。今回の場合、下から二番目の三和区振興会の「印刷機導入による地域住民への貢献事業」は、希望額の満額が配分されるが、その下のさんわ祭り実行委員会の「コロナに打ち勝つ「イルミネーション」点灯事業」は、41万8千円の希望額から6万円を引いた35万8千円となり、全体で600万円満額となる。これが基本の採択方法である。

採択方法の二つ目。審査にかかる全体協議を経て補助金額等を調整し採択することができることになっている。これは補助額を按分して全体で600万円とするもので、こちらを採用した場合、三和区振興会の「印刷機導入による地域住民への貢献事業」が119万5千円、さんわ祭り実行委員会の「コロナに打ち勝つ「イルミネーション」点灯事業」が40万3千円となる。各項目の合計点数25点満点中、「印刷機導入による地域住民への貢献事業」が14.34点、一番下の「コロナに打ち勝つ「イルミネーション」点灯事業」が13.90点となっている。この部分を考慮していただき、通常であれば一つ目の採択方法であるが、二つ目を採用するかというところをご審議いただければと思う。

【高橋会長】

皆さんのご意見をいただきながら決定したい。

【松井委員】

個人的には、「印刷機導入による地域住民への貢献事業」の満額の採択を支持する。

【高橋会長】

他になければ、採決してよいか。

では、「コロナに打ち勝つ「イルミネーション」点灯事業」の補助額を6万円減額した、採択方法の一つ目を支持する方は挙手を求める。

(全員挙手)

【高橋会長】

挙手多数により、そのように決定します。予算額600万円に対して600万円の満額となりました。

点数の上位から採択の確認を今一度させていただきます。

まず、「小・中学生が「三和を愛する心を育む」ための事業」は、採択でよいか。

(「はい」の声)

【高橋会長】

「高齢者いきがい支援事業（ときめき広場）」は、採択でよいか。

(「はい」の声)

【高橋会長】

「上杉小学校創立 120 周年記念事業」は、採択でよいか。

(「はい」の声)

【高橋会長】

「三和ふれあい食堂事業」は、採択でよいか。

(「はい」の声)

【高橋会長】

「東日本大震災にまなぶ事業」は、採択でよいか。

(「はい」の声)

【高橋会長】

「三和の三国街道巡り事業」は、採択でよいか。

(「はい」の声)

【高橋会長】

「三和の子どもたちの健やかな成長を支援する事業」は、採択でよいか。

(「はい」の声)

【高橋会長】

「三和中学校創立 50 周年記念支援事業」は、採択でよいか。

【松井委員】

この件については、申請内容からみると付帯条件をつけたらどうか。たまたま代議員の方が 4 人いるが、小山田委員いかがか。

【小山田委員】

三和中学校後援会の予算書にきちんこの事案を入れて作り直ししてもらうように、私自身は申し入れをしたいと思っている。

【高橋会長】

他に意見はあるか。

(意見なし)

【高橋会長】

では、そのように進めていただきたい。

【高橋会長】

「さんわ桜の陣2022周知事業」は、採択でよいか。

(「はい」の声)

【高橋会長】

「印刷機導入による地域住民への貢献事業」は、採択でよいか。

(「はい」の声)

【高橋会長】

最後、「コロナに打ち勝つ「イルミネーション」点灯事業」は、補助額35万8千円で、採択でよいか。

(「はい」の声)

【高橋会長】

ありがとうございました。

満額決定したため、追加募集はなし。

では、4 その他に入る。三和地区地域福祉推進委員の推薦について、事務局の説明を求める。

【岩崎次長】

・資料No.3により説明。

社会福祉協議会から、地域福祉推進委員の任期が今年3月31日を以って満了したため、地域協議会委員1名の推薦依頼がきている。団体の代表ということで、会長から務めていただいている。引き続き会長から務めていただくことでよいかと思うが、協議願いたい。

【高橋会長】

今の提案についていかがか。

(異議なし)

【高橋会長】

では、引き続き務めさせていただく。会議があり次第、結果を報告したい。

他に、事務局から何かあるか。

【岩崎次長】

中郷区地域協議会から市に提出された意見の写しを、参考に配布させていただいた。

【高橋会長】

松栄委員から委員に配付したい資料があるとのこと。

【松栄委員】

青少年育成会議でコーディネーターという役をしており、三和中学校の生徒会とまちづくりワークショップをしている。配布したシートは、生徒会の役員にまちづくりの一環として考えてもらい、書いてきてくれたものをそのまま入力したもの。この子ども達の声を活かそうと考えた時に、青少年育成会議では収まりきれないと思い、地域協議会の皆さんにお配りした。

【高橋会長】

地域協議会と青少年育成会議との膝を交えた話し合い、懇談会など皆様の賛同を得られれば進めていきたい。

最後に、事務局から次回の会議についての説明を求める。

【岩崎次長】

6月の地域協議会については、今のところ報告事項、協議事項等の予定もないため、勉強会のみで開催とし、今後案件が出てきた場合は、会長、副会長と相談させていただき、皆様に案内させていただく。勉強会の日程は、6月11日（金）午後6時30分からどうか。

【高橋会長】

では、その日程でよいか。

(はいの声)

【高橋会長】

それでは、次回の勉強会を6月11日（金）午後6時30分から開催する。

以上で、本日の地域協議会を終了する。

【小林副会長】

－挨拶－

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

三和区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL : 025-532-2323 (内線 215)

E-mail : sanwa-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。